学校番号	302

平成 31 年度　音楽科

教科	音楽	科目	演奏研究Ⅰ (声楽)	単位数	１単位	年次	１年次
使用教科書	高校生の音楽１（教育芸術社）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・この授業では、声楽専攻の生徒が集まって授業を行います。
・教科書と筆記用具、プリントを綴じるためのファイルを必ず持参してください。
・声楽専攻実技や音楽理論、音楽史などで学んだことを結びつけ、将来プロの音楽家として必要とされる音楽的総合力を身につけます。

音楽的総合力を身につけるために授業で学ぶこと（１年次）

① 時代や地域による表現上の特徴や作曲家の表現上の特徴を踏まえて楽曲を分析する事ができ、調べたことを言葉によりまとめる力＝プログラムノートや楽曲についての分析レポートを自分で作成します。
② 声の特徴を踏まえた解釈や歌詞のディクション（イタリア語）を身につけること＝自分一人で楽譜に書いてある歌詞や記号について解釈して譜読みができるようにします。
③ 演奏会を企画・実演する力＝演奏会の成り立ちを学び、舞台での所作を身につけ、年度末には、学んだことを発表する場として企画・運営・実践、演奏発表など自ら計画した演奏会を仲間とともに実施します。

2　学習の到達目標

音楽作品についての演奏や研究を通して、演奏における客観性と多様性を理解し、音楽の様式を尊重して演奏する力を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への 関心・意欲・態度	b:音楽表現の 創意工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽の学習を行い、演奏発表の場では演奏を共有し、互いに研究した解釈などの成果物を評価しあったりする活動に積極的に取り組もうとする。	音楽を形作っている要素を楽譜や歴史的背景や作曲家の表現上の特徴と結びつけて知覚し、それらの動きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持ち、言葉や演奏で表現することができる。	声の特徴を踏まえた解釈や演奏、作曲家の表現上の特徴を踏まえた解釈を必要となる資料を活用して情報収集しまとめることができ、それを自らの演奏や言葉の表現に活用することができる。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、価値を判断し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わい、自らが解釈したことを言葉によって言い表すことができる。
評価方法	授業観察 ワークシート レポート	授業観察 演奏聴取 ワークシート	演奏聴取 ワークシート	授業観察 ワークシート レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４．学習の活動

月	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			関心・意欲・態度	創意・工夫	技能	鑑賞の能力		
4～8	演奏会の歴史とステージマナーとイタリア語ディクション	① クラシックの演奏会ではなぜマイクを使うことをしないのか？演奏会の歴史を紐解き、舞台上で求められる所作やマナーについて学び、実践します。 ・歴史的背景の学習 ・i-Pad を使って舞台でのウォーキング、所作をセルフチェック！お客さんにはどんな印象を与えているのか？ ・素敵に見せる演奏家になるためには？ （グループディスカッションと発表）	○ ○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a アクティブラーニング形式のマナー実践で、積極的に活動し、i-Pad での所作の振り返りにおいて、学習した要素に沿って自己の所作を分析し、改善に生かせている。 c 映像を見て気がついた自己の改善点に対し、他者の改善ポイントから学んだ点を生かしてよりよく改善できたか。 b 他者の良さを自分にも生かそうと、自己分析したことを創造的に話し合い、自分の所作に生かすことができる。 d 他者を見て、分析したことを言葉で伝えられたか。	観察 演奏聴取 ワークシート レポート 観察
		② イタリア古典歌曲の魅力を探る ・声楽家は初めになぜイタリア歌曲を学ぶのか？ ・イタリア語の特徴とその発音 ・イタリア語ディクション ・イタリア歌曲の詩の朗読	○	○	○ ○	○	a 積極的に活動している。 b 朗読する際に、イタリア語の発音や特性を掴んで朗読できる c イタリア語正しく歌うディクションが理解できている d 他者の発語について良し悪しがわかる	ワークシート 小ディクションのテスト
9～10	イタリア語の作品を知る	③ イタリア語の作品を知る歌曲とオペラ作品について ・マイベスト曲についてプレゼンしよう！～i-Pad を使って、みんなに是非知ってほしい My best イタリアンソングをプレゼンしよう。	○	○	○	○	a 積極的に参加している b 良さを知ってもらいたい曲について解釈・分析でき、聴く人にわかりやすい資料としてまとめプレゼンテーションができる。 c プレゼンテーションの内容根拠を明確に示し、自らの意見を伝えることができる d 他者の発表について、自分なりの意見を文章にまとめられる。	授業観察 プレゼンのためのワークシート プレゼン内容と発表

10～3	イタリア語の作品をアンサンブル演奏する	④　イタリア語の作品をアンサンブルする ・声楽専攻生で声楽アンサンブルを楽しもう ・声を合わせるための秘訣 （母音と子音の発語法の実践）	○	○	○	○	a 他者と協力して積極的に活動できる。 b アンサンブルをする上で気必要な技術を応用して実際に演奏することができる c アンサンブルを美しいハーモニーで演奏することができる d 互いに演奏を高めるためのアドヴァイスを的確に行うことができる	授業観察 演奏聴取 ワークシート
10～3	みんなで演奏会を企画！！　1年で学んだことを応用する	⑤　みんなで演奏会を企画しよう（学習したことの応用実践） ・イタリア語の声楽アンサンブル作品を演奏する演奏会の企画を自分たちで企画する。 ・演奏会が成立するために必要な役割を知り、実際に運営する。 ・演奏する曲に関して、プログラムノートとして歴史的背景などをまとめた文章を記載する。 ・プログラミングの意図や解釈などを文章にプログラムを作成する。 ・年度初めに学んだ舞台マナーの実践の機会とする。 ・演奏会は記録し、まとめとして自らが干渉することで振り返り、客観的に演奏会の企画・演奏の内容について要素別に互いに批評する機会とする。	○	○ ○	○ ○	○	a 積極的に活動し、演奏会を最後まで他者と協力してやり遂げることができる b　創造的な企画を立案し、演奏会のプログラミングを自分たちでまとめることができる c プログラムを作成し、プログラムノートとして楽曲を分析し、曲目解説を文章としてまとめることができる アンサンブルをするために必要な要素を理解し、美しい声楽アンサンブルを演奏することができる。 d 自らの演奏を振り返り、客観的に文章で批評することができ流。 音楽の要素別に演奏会や演奏に対して批評を述べることができ、経験から学んだことを先にどのように生かすことができるかを感受し文章にまとめることができる	授業観察 レポート課題（プログラムノート） 演奏聴取 まとめのワークシート